

そとろがく

3月号 (No. 33)
20.3.26 発行
現職研修委員会
総合的な学習部編集



「新学習指導要領と総合的な学習の時間」

総合的な学習部長

岩瀬 敏彦

本年度も各学校では、それぞれの実情に応じてさまざまな総合的な学習の時間への取り組みがなされ、すばらしい成果を得ることができました。その一端は後掲の実践事例集から知ることができますが、これは各学校において総合的な学習の時間がしっかりと根付き、各教科の学習と並び、相互に補充し合っており、子供たちに生きる力をはぐくむ重要な取り組みとなっているからに他なりません。岡崎市の各学校のこうした地道な取り組みが展開する中、新たな動きが始まることになりました。

文部科学省は二月十五日小・中学校学習指導要領案、幼稚園教育要領案を発表しました。今回の改訂のポイントは次のとおりです。

- ・教科の枠を超えた横断的・総合的な学習 探求的な学習を行うことをより明確化
- ・学習活動の例示として、発達の段階に依り、小学校で地域の人々の暮らし、伝統と文化についての学習活動、中学校で職業や自己の将来に関する学習活動を追加。

・教育課程上における位置づけを明確化（総則から新たに章立て）。

（文部科学省「幼稚園教育要領、小学校学習指導要領及び中学校学習指導要領の改訂案等のポイント」より）

ここからは総合的な学習の時間を以前に増して重視していることがうかがえます。これまでなかった探求的な学習を求めていること、小学校では地域の人々の暮らし、伝統と文化についての学習活動を、中学校では職業や事故の将来に関する学習活動を新たに例示していることはその表れです。

しかしその一方で時間数が削減されていることに気をつけなくてはなりません。文科省はこのことについて次のように説明しています。

「生きる力」をはぐくむために、総合的な学習の時間で行われている体験的な学習や課題解決的な学習はますます重要です。これらの学習のためには、各教科で知識・技能を活用する学習活動を充実することが必要であることから、総合的な学習の時間を削減し、国語や理数等の時数を増加します。これにより、各教科での学習を踏まえ、総合的な学

習の時間における教科等を横断した課題解決的な学習や探究活動の質的な充実が図られます。

さて、この課題に私たちはどう取り組んでいったらよいのでしょうか。なかなか難問ではありませんが、岡崎の先生方にはこれまでの研究の積み重ねがあります。実践事例集を片手に、目の前の子供たちをしっかりと見据えていけば、道はおのずと開けてくるのではないのでしょうか。どうか自信をもって新しい課題に立ち向かっていただきたいと思います。

情報コーナー

平成十九年度の総合的な学習の時間実践事例集が完成しました。各学校の特色ある取り組みの一部をご紹介します。詳しくは各校に配布した実践事例集をご覧ください。

大門小学校

「四年 ビオ大門キレイキレイ大作戦」の実践

(1) ビオだいもんは学校の自慢の一つだよ

ビオだいもんの様子をもっとよく見てみよう

(2) ビオだいもんをきれいにする方法を見つけよう

ビオだいもんを知るために日誌をつける。

(水温・気温・藻の観察・ごみの有無・CODパ

ックテスト)

自然の様子を調べる。(水・藻・泡・植物・生き物)

疑問点を専門家に聞く。

- (3) ビオだいもんをもっときれいにするために環境を整えたり様子を知ってもらう活動をした。
- (4) 自分たちの力でビオだいもんを守っていきこうキレイ活動を始めよう 看板を作ろう
- (5) きれいになったビオだいもんで、何かしよう生き物や植物を育てたい。
- 生き物や植物を教えるマップや看板を作りたい。新聞やパンフレットを作って様子を知らせたい。コンサートをしたり作品を置いたりしたい。
- (6) 実践を振り返って

定期調査活動を取り入れることで、自分たちでビオだいもんの環境を守ろうとする意識が育った。また、清掃活動などを通して、友達と協力して活動することの良さにも気づくことができた。

【清掃活動後の感想】

草を取った所がとて
もすつきりしました。草
を取るとすつきりして
いい気持ちになるんだ
なあと思いました。(R
子)

みんなが協力すれば
もっと取れると思うの
で、協力し合ってビオだ
いもんをきれいにし
ていきたい。(A男)



美川中学校

「一年 大切な自分と仲間」の実践

(1) プレインストーミング

「たばこについて」をテーマとして行った。

(2) 一人調べ

追究課題は前回までの授業で疑問に思ったことを調べた。生徒は多くのホームページを見て、正確な情報を集めようと真剣に取り組んでいた。

(3) リーフレット作り

一人調べで学んだことを中心に、生徒はどのように書けば見た人にたばこの恐ろしさを伝えることができるか考えながら作っていた。

(4) 世界禁煙デーでの活動

5月31日の世界禁煙デーでは次の活動を行った。横断幕を使った呼びかけ 自作リーフレットの配布 喫煙に関する聞き取り調査

(5) 実践を振り返って

呼びかけをし、積極的にリーフレットを配ったり、聞き取り調査を行ったりする様子が見られた。活動を通して「少しでもたばこを吸う人がいなくなるとほしい」という考えをもつことができた。

【世界禁煙デー活動後の生徒の感想】

たばこはやはり体に悪いのでやめてほしいです。
1本吸うごとに寿命が5分30秒も縮むということを知りました。周りで煙を吸っている人たちは何分縮むのかなと思いました。



竜南中学校

「三年 いのちプロジェクト」の実践

(1) 関心を高める段階

教師による「自分の子ども誕生までの過程」について講義を受ける場を設けた。教科の授業を行う

教師が、自分の家庭での様子を初めて話す場となり、生徒は大きな興味をもって、熱心に聞き入っていた。

(2) 追究を深める段階

生徒の興味関心に分かれてカテゴリーを形成した。あるカテゴリーでは、生徒の話し合い活動から、「自分は骨髄提供をしたいか、したくないか」という課題が生まれ、追究活動へと進んでいった。

追究活動では、パソコン、書籍だけでなく、地域の人々の意見を聞きたい。専門家の考えを聞いてみたいということ、校外追究活動を計画し、アンケート調査は岡崎市内で、専門家への聞き取りは名古屋の病院まで出かけて追究活動を行った。

追究内容を一人一枚の色画用紙にまとめ、発表活動と、話し合い活動の場を設定した。自分たちの調べたことを基にして意見を出し合った。その場には骨髄移植を受けた方をゲストに迎え、話し合いを踏まえての意見を話していただいた。自分たちの追究内容に、さらに自信を深めることができた。

【発表活動後の感想】

みんなの意見を聞いていたら、自分の知らなかった視点が多くありました。それは、アンケートから親族や身内ならしいという人が多かったことが分かりました。また、現在では痛みがほとんど残らないぐらい技術が進歩しているという言葉がありました。

